

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 NPO結II

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			国の指定基準を満たしたスペースの確保をし、活動スペースとして提供しています。
	2 職員の配置数は適切である	4		利用者様の居る時間と指導員の休憩時間が複数人重ならない様にシフトを組んでいます。	国の職員配置指定基準を満たした職員数を配置しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		4	療育室内は見通しが良く、言葉では伝わりにくい利用者様に配慮して、掲示物による伝達方法も取り入れています。	療育室内は見通しが良く、情報が伝わりやすい空間になる様に配慮しています。また、クールダウンが必要な場合は、状況に応じて個別指導室で行う様になっています。室内はフラットだが、施設入口、トイレ等は段差がありバリアフリー化されていない。(賃貸の為、工事が難しい。)
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		アルコール消毒や換気を定期的に行っている。 空気清浄機を設置している。	毎日掃除を行い清潔な空間作りを心掛けると共に、感染防止の点から、こまめな換気・アルコール消毒を徹底して行っています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		2018年開設時からPDCAサイクルの取り組みを行っている。	開設当初からPDCAサイクルの取り組みを開始しています。今後も職員間で連携を深めつつ、期間ごとに振り返りを行い、参画を行っていきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		送迎時やLINE等を活用し意向等を聞くようにしています。	年1回のアンケート配布と個別支援計画作成時に意見聴取を行っています。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		全利用者様に向けてHPにて公開しています。	HPにて公開しております。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		保護者の方にはこのアンケートを通じて評価をしてもらっていますが、第三者による外部評価は行っていません。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		事業所内でも勉強会を実施しています。(月1回ペースで。)	年単位で受講計画を立てて行政・民間の研修を受ける様にしています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		同法人内で統一したアセスメントシートを用いて、アセスメントを行う。	同法人内で統一したアセスメントツールを用いてアセスメントを行うと共に、利用者様や保護者様のニーズに沿った計画を作成させて頂いています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		同法人内で統一したアセスメントシートを用いて、継続性の有る支援を行う。	同法人内で統一したアセスメントツールを用いて、継続性の有る支援を行う様にしています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			児童発達支援ガイドラインに基づいた支援計画を作成、具体的に支援内容を示す様にしています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			児童発達支援管理者が作成した支援計画に沿った支援を日々行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4		活動プログラムについては個々に意見を出し合い、話し合いを行っています。	指導員・児童発達支援管理責任者が意見を出し合い、プログラムの立案を行っています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			随時、利用者様の状況に応じて、プログラムの見直しを行い柔軟性の有る支援を行います。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			個別活動・集団活動のバランスを大切に個別支援計画を作成しています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		毎朝、職員みんなでミーティングを行っています。	その日に提供する個別・集団の支援内容や役割分担について、支援開始前に確認を行っています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		LINEを活用し支援の振り返りを行っています。	支援終了後に、その日の支援の振り返りを行うと共に気付いた点をグループLINEで共有し、翌日の始業前ミーティングで話し合っています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		どんな些細な事でも記録を取る事を職員間で徹底しています。	日々ケース記録を作成し、支援の検証・改善に繋げています。(トラブル報告・対応報告等)
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			6ヵ月ごとにモニタリング・アセスメントを行い、計画の見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			児童発達支援管理責任者が会議に参加しています。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		4		今後、各機関と連携を取れる様にしていく。
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		4	現在は重症心身障がいのある利用者様はいません。	現在、医療的ケアの専門スタッフの配置はなく、医療的ケアが必要な子供さんのご利用はありません。
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4		今後支援する事になった場合には、子供さんの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えます。
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			今後、要請があった場合に御家族の同意を得たうえで、それまでの支援内容等の情報を提供していく。
	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			今後、要請があった場合に御家族の同意を得たうえで、それまでの支援内容等の情報を提供していく。
	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			障がい児等療育相談支援事業所を主とした連携を深め、会議・研修等に積極的に参加しています。
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		御家族様の了解を取り、希望があれば取り組んでいきたいと思えます。
	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		4		事業所が所在する地域の自立支援協議会に、障がい児支援に特化した部会がないので参加の声がかからないのだと思います。声がかれば積極的に参加したいと思えます。

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		連絡ノートやLINE等でこまめに情報交換しています。	家族様との情報交換を密にし、共通理解を持てる様に心掛けています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている		4		今現在、ペアレントトレーニングを事業所内で行う事は不可能なので、外部であれば必要に応じて情報を提供していきます。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		日系の家族様には通訳を通じて説明させて頂いております。	契約時に運営規定・支援内容・利用者負担等について丁寧に説明を行っております。又、適時問い合わせ等があった場合は管理者が適時説明を行います。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			ガイドラインに基づいた支援計画を作成し、内容説明後に同意を得ています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			随時、家族様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、担当の障がい児相談支援専門員と連携し助言と支援を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		参加を希望される家族様が少ない事から実施致しておりません。今後、家族様から希望があれば実施したいと思っております。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			利用者様や家族様からの苦情申し入れに対し、苦情受付機関を設けております。今後も、苦情に対して、迅速で適切な対応を心掛けて対応していきたいと思っております。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			会報は発行していません。Instagramに活動の様子をUPしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			個人情報の取扱いには管理者の決意を以て行う事として、細心の注意を払っております。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			日本語での意思の疎通や情報伝達が難しい日系の保護者様や利用者様には、通訳を介して伝える等の配慮を行っています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		コロナの流行以降は地域行事(白塚獅子舞保存会)の招待をしていません。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		年3回は想定訓練を実施しています。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			通常5・9・12月に避難訓練を行っています。昨年は垂直避難や南海トラフを想定した避難訓練を行いました。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		「成育歴確認表」を配布し家族様に記入して頂いております。	家族様から利用者様の健康面での聞き取りを行い、職員同士で基本情報の共有を心掛けています。
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	4		アレルギーチェック表を家族様に渡し記入して頂いている。	家族様からの聞き取りでアレルギーに対する対応は行っておりますが、医師の指示書は頂いておりません。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハット報告書を作成している。	ヒヤリハット例があった場合は毎日の記録に記載し、事業所ミーティングで検証を行います。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			虐待防止委員会を年に1回以上、研修も同時に行い、外部の研修にも参加しています。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		身体拘束が必要とされる利用者様の受け入れを行っていない。	契約時には必ず、「利用児童又はその他の利用児童の生命又は身体を保護する為、緊急やむを得ない場合を除き、行動制限その他利用児童の行動を制限する行為は行わない」という説明をさせて頂いております。